



大阪・京都教区報

発行責任者 久敬 磯高 晴地 主 大阪教区事務所 06-6621-2179 京都教区教務所 075-431-7204 通算号数 大阪488号、京都748号

乏しい中の豊かさ

わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。(ヨハネによる福音書14:13)

司祭 ウイルソン ウォーレン

「ギデオンの」のお話を覚えていきますか？詳しくは士師記6章〜8章を読んでください。残酷なようでとてもおもしろくて、大切なお話だと思います。

が応募します。敵のミディアンの兵隊は13万5千人程度なのに神様はギデオンに言われます。

「あなたの率いる民は多すぎるので、ミディアン人をその手に渡すわけにはいけません。渡せば、イスラエルはわたしに向かつて心



ギデオンはボランテニアの軍隊を募集すると3万2千人

がおごり、自分の手で救いを勝ち取ったと言うであろう。それゆえ今、民にこう呼びかけて聞かせよ。恐れおののいている者は皆帰り、ギレアド

7月号の紙面

- 大阪教区婦人会／日聖婦会長会
 - 原発はやめようよ／学校紹介
 - ハラズメント防止委員会研修
 - 沖縄週間／キリスト教保育研究会報告
 - OK委員会だより／主教コラム
 - 教会紹介／常置委員会・局長会議報告
 - 諸記念／主教巡回予定
- ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

の山を去れ、と。

2万2千人が帰ります。しかし、主はまだ多すぎるといわれ、更に減らし続けさせ300人だけが残ります。(減らし方について7章4節以下参照)

全体の話はとても感動的なお話ですが結果として、450対1の大差をつけられたイスラエルの300人が主の助けによって勝利を得ました。

勿論、ギデオンたちは与えられた知恵と力を生かして、戦略的思考の上で動きまわりましたが、不可欠な土台として神様に頼り、信頼しました。そうすると「自分の備えは全く足りない状態であったも、神様の御心に叶う結果が見いだされます。

19世紀にハドソン・テラーが「中国奥地宣教団」を設立しました。原則として募金をせず、ただ神様に祈り、神様がニーズを満たすことを信じる方針を持ちました。「神の働きを神の方法でするなら、神の備えに欠けることはない」と言い、そして、「偉大な信仰ではなく、偉大な神への信仰が必要なのです」とも言いました。

わたしたちは自分の乏しさを感ずるとき、不安を抱き、「自分の」力と考えにより努め、改善しようとする傾向があります。キリスト者として違う生き方に召されていると思います。

既に神様に与えられている「備え」を感謝し使用しながら次に必要な「備え」を必ず与えられることを信じ主と共に行動していきましょう！ (芦屋聖マルコ教会牧師)

「たまたま」

私は結婚と同時に、夫の母とひとつ屋根の下で暮らし始めました。家には仏壇があり義母は毎朝お経を唱えていました。義母は亡くなる5年前から寝たきりになり、1日7回のおむつ交換、24時間365日休みなしの自宅介護が始まりました。義母が動けなくなり、仏壇の世話はそれまで二度も手伝ったことのない私の仕事となりました。毎月参りの任職との打ち合わせ、仏壇の飾りや掃除、行事の準備等すべて私がしています。

義母は生前私に仏教を勧めたことは、度々ありませんでしたが、義母が亡くなり、偶々成り行きで浄土宗に深く関わり、信仰の世界が広がりました。キリスト教と仏教の二つの宗教に関わることに抵抗するのではなく、「これが私の人生にとって必然なのだ」と受け入れています。教会、お寺関係での人との出会いを大切にしていきたいです。毎日、アーメン、南無阿彌陀仏と唱えています。いずれ神様が仏様が決断の日

は来ると思いますが、今は決めるまでもないと思っています。(桃山基督教会 安井 国香)

大阪教区婦人会 会長・副会長任命式

主の聖名を賛美いたしま
す。

梅雨を忘れるほどの晴天に
恵まれた6月21日(月)10時
半、大阪教区婦人会は次期を
担って下さる会長・副会長の
任命式が川口基督教会にて無
事執り行われました。司式を
チャプレンの内田望司祭さ
まに行っていたいただき、「コロ
ナ禍において、人と直接交わ
れない時期こそ、我々は主イ

日本聖公会婦人会 第26(定期)総会后 第2回会長会

6月22、23日の2日間、大
阪聖ヨハネ教会に於いて、日
本聖公会婦人会第26(定期)
総会后第2回会長会を開催い
たしました。開会聖餐式の中
で武藤謙一(ひらふみけんいち)首座主教様に感謝
箱献金(コア)運営委員長と
スタッフ、翌日の朝の礼拝で
コアチャプレンの任命式を執
り行っていたいただきました。各
教区婦人会の代祷では国内外
で猛威を振るうコロナウイル
ス感染症に苦しむ方々への祈

エスさまと強い濃厚接触者に
なり大切な時間を持ちた
い!!」とお話しくださしまし
た。当日の参加者は16名の少
数でした。実際は5月の昇天
日に礼拝・総会・任命式が予
定されていました。しかしコ
ロナの影響のため再度の緊急
事態宣言中となり身動きが取
れずで延期せざるを得なくな
りました。役員の任期は3年
です。私たち旧役員はいつに
なるも任期を終えることが出
来るのだろうかと不安を覚え
ていましたがこの度、ようや

く暗闇をくぐり抜け輝かしい
光が注がれるのを実感しまし
た。まだまだ時間は掛かるこ
とでしょうが、今後コロナの
ワクチン接種が多くの人に
行き渡り、世の中がコロナの収
束と共に明るい兆しが見える
ことで大阪教区婦人会の活動
も生かされて行くと信じてい
ます。

2024年には大阪教区婦
人会成立100周年を迎えます。
それにあたり、ますますの発
展・充実されますことを心よ
りお祈り申し上げます。



主に感謝。
(婦人会会長 山村 小夜子)

新会長 鈴木 久美子さん
恵我之荘聖マタイ教会(左)
新副会長 加納 佳世子さん
大阪聖アンデレ教会(右)

りを献げました。

議案は10件のうち8件は感
謝箱献金のお献げ先で、海外
ではエルサレム教区、バング
ラデシュ、ケニア、ウガンダ
など、現地からの報告を読み、
またはリモート訪問された様
子などから判断しました。国
内では、生き辛くされている
人々や子どもたちのための支
援、また東日本大震災から10
年が経ちましたが、被災者に
寄り添う支援すべて可決され
ました。

2日目は「分かち合い」と
だけ題し、各教区婦人会のこ
の一年半の様子などをお話し

頂きました。九州教区婦人会
は既に閉会されたのですが、
この自由な話し合いの場に参
加して頂き、個人会員として
繋がっておられる様子をお聞
きました。いずれの教区も
婦人会の継続に困難を感じて
おられ、またコロナ禍でこれ
までの活動が止まりました

が、その中で今後に向けての
対応をお互いに分かち合えた
と思います。

武藤主教様からは、婦人会
を閉会することは簡単なこと
ですが、日聖婦という組織か
ら離れてみて、その中での働
きが大切であり、また教区婦

(日本聖公会婦人会
会長 井上 恵美子)



オンラインフォーラム 「原発はやめようよ」

5月30日(日)～6月1日
(火)、6月6日(日)～6月
7日(月)までの前半・後半
に分かれた日程で、「オンラ
インフォーラム…「原発はや
めようよ」」が開催されまし
た。

今プログラムは講演会と5
つのフォーラムで構成され、
各フォーラムでは発題後、小
グループに分かれて意見や感
想を出し合い、全体での分か
ち合いを行う形で進行されま
した。

講演会では「会津放射能情
報センター」代表の片岡照美
さんが、東日本大震災での原
発事故による放射線の影響か
ら子どもたちを守るお母さん
たちの姿を中心にお話しくだ
さいました。情報センターは
「安全かどうかは私が決める」
を基本姿勢に、生活圏内の放
射線量の測定や食品の測定を
行ない、その数値の高低や安
全・危険を自身で判断します。
収穫したお米の数値が低く
なったので、遠方に暮らす娘
さんに送ることができると思



ぶ方がおられる一方で、子ども靴の裏から予想をはるかに上回る線量が計測されたため、肩を落すお母さんともいらつしゃつたそうです。子どもの衣服や靴はこまめに洗うなど、被ばくのリスクを軽減する工夫をしながら生活されている方々の姿を紹介されました。「私たち大人は楽観論や無責任なあきらめに逃げろわけにはいかない」「厳しい現実に向き合う仲間と共に、その生命も大切にされる社会に近づく希望を見いだしていきたい」との言葉が心に残りました。

5つのフォーラムでは北海



(司祭 古澤 秀利)

道教区の尾関^{おぜきとしあき}敏明さんが発題をされました。発題を通して、エネルギー問題は私たちの生活と密接な関係にあるが、日本のエネルギー政策の中心にある原発は危険であること、また再生可能エネルギーも環境問題と繋がっているため、このエネルギーを用いるにあたって、まずは私たちの生活を見つめ直す必要があることを感じました。

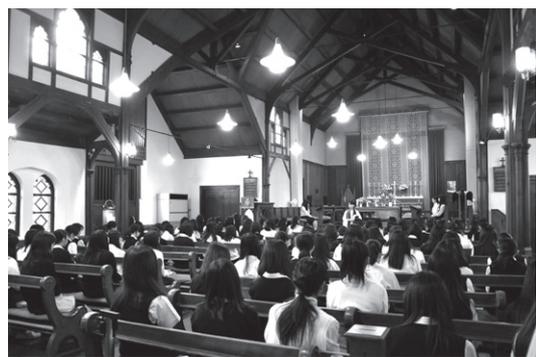
「私たちの教区・教会での働き」と題されたフォーラムでは、具体的な働きとして、京都教区聖光幼稚園の「お日さまプロジェクト」が紹介されました。詳細は各教会に配布されている資料をご覧ください。

各教区の働きを知ること、私たちが日常用いているエネルギーについて考えるきっかけになること、神さまが「よし」とされた世界と私たち人間自身について考えることなのだ、と改めて気づかされるプログラムでした。

学校紹介

平安女学中学校・高等学校

京都市上京区の御所西に位置し、京都教区主教座聖堂・聖アグネス教会を学校チャペルとして有する平安女学院中学校・高等学校は、今年創立146年となります。1875年、米国聖公会からウィリアムズ主教の要請により、宣教師ミス・エディが遣わされ、大阪川口居留地に「エディの学校」が設立されたのが始まりです。日本政府によってキリシタン禁制の高札が撤廃されたたった2年後のことでした。3人の女子学生から始まった小さな学校は5年後には50名の生徒を迎えるまでになり、この世の暗闇を照らすキリストを知らせる学校として「照暗女学院」という名がつけられました。創立から20年後、1895年に京都の現在の地に移転、校名は京都らしく、且つ主イエスが与え給う真の平和を表す「平安女学院」と名付けられました。建学の精神は、「知性を広げ、望みを高くし、感受性を豊かにし、そして神を知らせる」です。これは、ミス・エディとともに



に学校設立に携わったクインビー司祭が、学校について本国へ書き送った手紙の中の一文を採ったものです。

本校チャプレンとして遣わされて今年度9年目となりますが、その仕事の中でわたしがいちばん大切にしてきたことは、「神を知らせる」とはどういうことかを、ほとんどがノンクリスチャンである生徒、教職員に知らせることです。神を知らせるとは、単に毎朝礼拝を行うことでも、聖書の知識をどれだけ詰め込むかとい

うことでもありません。それは、生徒たち一人ひとりに「あなたはあなたのままで素晴らしい」ということを知らせ、だれもがそのまま愛され、肯定され、受け入れられる存在であることを学校全体で伝えていくことです。

クリスチャンの教職員が非常に少ない学校でキリスト教教育を推し進めるのはチャレンジとして大きな困難を感じます。しかし、キリスト教育とは実際何なのか、ノンクリスチャンの教職員と手を携えてそれをどう進めていくのかということを日々考えさせられる恵みに感謝しています。

継続している現在の課題は、神さまに呼ばれた生徒たちを如何に教区・教会へ招き入れるかということです。教育部や近隣教会の皆さまには既に大変お世話になっておりますが、これからもますます平安女学院の生徒たちが教会に繋がりますよう、お祈りとご協力をお願いいたします。

(司祭 古本 みさ)

管区主催「第2回ハラスメント防止対策研修会」

自己肯定・他者否定

6月5日ウェブ開催された第2回ハラスメント防止・対策研修会(東日本宣教協働区)に参加した。講師の金香百合さんによる研修への参加は、一昨年北京教区センターで行われたハラスメント研修に続き2度目となった。

金香百合さんの明るく温かいお人柄、巧みな話術、自らの実体験に基づく具体的な事例紹介には、今回も強く惹きつけられた。前回の研修では「信徒の家柄・血筋・社会的身分を重視するのは、イエスさまの教えに背いている。イエスさまはそれらを決して重視されなかったではないか」という内容のお話しを伺い、現状について大きく考えさせられた記憶がある。

一方で、現在日本国内では女性活躍推進法の公布や労働施策総合推進法・男女雇用機会均等法等諸々の法律の改正が行われ、「職場」におけるハラスメント対策が事業主の義務とされている。職場におけるハラスメント防止に関する各種指針等も厚生労働省から出されている。

包括団体としての宗教法人の法人事務を担う教区事務所は「聖」(＝信仰に関わる部分)と「俗」(＝日本の諸法令に関わる部分)の両面に関与する場所である。従って、ここで生じるさまざまなハラスメントに対しては、「牧会」と「職場」の両視点からの解決が求められる。

今回の研修会では、自らが意図せず「加害者」になる可能性がある、という事実を再度意識化させていただいたが、それとともに、自分がハラスメントの「被害者」になった場合に、「聖書に『赦せ』と書いてある」ということを根拠として、むやみに、あるいは一方的に、「加害者」を「赦す」ことを強要される必要はないのだ、

ということも学ぶことができた。「ゆるすのは、私(ハラスメントの被害者)ではない」「すなわち、ゆるすのは神の役割である、というメッセージに強く励まされた。

皆さまのご献金を元手として俸給をいただいている事務所職員は、往々にして「公僕」としての在りようを求められるのであるが、その中にあるのも、研修会の中で教えられた「わたしもあなたもよい(自己肯定)」という基本的構えで接していただけたら、と願うものである。「わたしはよいけどあなたはダメ」ではなく、

(大阪教区事務職員 水畑 裕美)

自分の「二面性」目を向けて

今年オンラインで三つの宣教協働区(東日本・中日本・西日本)に分けての研修会となりました。どの回も40名前後の方が参加されたようです。私は6月26日(土)の会に参加させていただきました。

京都教区からは9名の方々に参加されました。

講師はホリスティック教育実践研究所所長の金香百合さんでした。「ハラスメントへの包括的支援(自分の加害性・被害性に向き合う)」をテーマにお話しいただきました。

三部構成で、講義を中心に、途中、6回の3名程の方と4(6分の意見交換を挟みながら)の研修でした。あつという間の3時間、充実の時間でした。

第一部では、特に「自尊心」について、時間をかけて、お話しいただきました。私たちが前向きに生きていくために不可欠な「自尊心」、自身自身の【「ころ」と「からだ」】が健康でなければならぬ事を再認識しました。【「からだ」の栄養は食べる・寝る・動くこと。【「ころ」】の栄養は安全・安心・大切・関心・聴く・ほめる・みとめる・信じる・感謝・あるがまま受容されていること。金先生の「自尊心・栄養論」です。反対に【「ころ」と【「からだ」】が栄養不足になると暴力性が出てくると。金先生の「自尊心・暴力理論」です。その暴力は自分に向く部分と人に向く部分がある場合があるとの事です。その暴力は①肉体的暴力②ことばの暴力③精神的暴力④性暴力⑤その他、があります。

第二部では、暴力は連鎖を生むことを、弱い方に向くことを、拡大していくことを、説明していただきました。また、暴力を傍観していることも加害者となることを確認しました。

私たちが生活していく中では、対人関係が必ず必要となります。良い対人関係を作るためには、自尊心が高いことが大事なことであり、【「ころ」と【「からだ」】が健康であることが大前提になります。

対人援助には三つの力①人間力②社会力③対話力が必要であることも学びました。

第三部では、組織(環境)について考えました。ハラスメント対応についてのステップとして、①事実確認②被害者支援③加害者更生④コミュニティ支援⑤予防、が大切とお話しいただきました。

人間だれにも二面性があり、裏の面より、良い面が前に出るように、自尊心を高く維持できるように、自分自身でも環境を整えていければと思います。

(京都教区ハラスメント防止委員会 委員長 南 明美)

沖縄週間

6月22日、23日の2日間にわたり、毎年行われている沖縄週間のプログラムが開催されました。昨年初めてZOOMによるプログラムを開催しましたが、昨今の状況より今年もZOOMでの開催となりました。

このプログラムはずいぶん前から行われておりましたが、私は心を寄せながらもなかなか仕事との兼ね合いで参加ができませんでした。それでもZOOMなら参加できそうと、23日の第2夜「沖縄の今に聴く」の方だけ参加させていただきました。

開会の祈りに続き、並里厚さんと岩佐直人司祭から発題をしていただきました。

並里さんは60年近く住まわられている沖縄市で、近くに基地があるが故に、通常ではあり得ないことが起きている事例をいくつか紹介してくださいました(交通事故や家宅侵入をした米兵が基地に入れば無罪になる等)。

岩佐司祭は、赴任された教会(沖縄市と那覇市)で走っ



ている車両が異なる(沖縄市の方がより米軍基地に入入りする車両を見かける)ことや、戦闘機の音に耳を塞ぐものの、守る術を知らない子どもたちをどう守っていかばいいのか苦しみ続けている様をお話してくださいました。

私自身も中学・高校時代を沖縄で生活した経験があります。お二人の発題は当時私が感じていたことを思い起こさせてくれました。私の住んでいた浦添市は普天間基地から近く、ヘリコプターの騒音がひどいと学校の授業の音が全く聞こえない状況になりました。それもしばらく生活すると慣れてしまうのですが、本

土で生活してきたことと何かが違う、生きづらさを肌で感じたものでした。

今回の沖縄の旅Webプログラムの「命どう宝々無関心に気づく」というタイトルがつけられています。高校卒業後、沖縄を離れ、30年近くが経ちます。ともすると、日常生活に追われながら、当時から沖縄で起こっていたこと、新たに沖縄で起こっている出来事に関心を寄せてきたのか、改めて問い直された気がします。

今回は時間が限られていたこともあり、参加者同士の分かち合いなどの交流の時間が十分とれなかったことは残念でしたが、沖縄に足を運ばなくてもプログラムに参加できる機会が与えられ、様々な可能性を感じたプログラムでした。次回以降は沖縄に行つて、直接肌で感じるプログラムに参加できたらと願っています。
(奈良基督教会 松本 誠)



京都教区保育園・幼稚園・こども園教職員 研修会報告

京都教区保育園・幼稚園・こども園教職員研修会がオンラインで、テーマ「キリスト教保育について」現場の先生方に伝えたいこと」のもと開催されました。公開日程は2021年5月10日から6月30日までです。

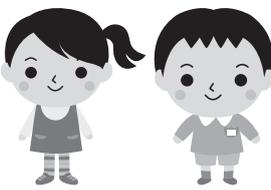
講師は、私、磯野真紀子(元平安女学院大学短期大学部保育科教授)と菅原さと子先生(幼稚園型認定こども園・聖マリア幼稚園園長)です。

コロナウィルス蔓延で、集まって行われる研修会が中止されるようになって2年。「自分はこれでいいのだろうか?」と保育の現場で不安な状況に置かれているであろう新任の先生方、またコロナウィルスに関する対応などで忙しい毎日をご過ごしておられるであろう先生方に、少し立ち止まって、保育を見直す機会を持つていただきたいと思います、講師2人で話し合い、役割を分担させていただきました。

菅原先生には、主に子どもの礼拝についてお話しいただ

き、実際に「天地創造」の聖話をしていただきました。また子どもが大切にされるといふことはどういうことか、また、保育者自身が日々の保育を少し振り返ってみることに、祈ることの大切さを教えていただきました。磯野は、キリスト教保育の根底を支えているものが「愛」であること、キリスト教保育が40年もの間脈々と受け継がれてきたことの意味を知り、今後につながることを期待したいと伝えました。子どもたち、保育者、保護者の方々が、神さまに守られて豊かな時を過ごすことができますように心からお祈りいたします。

(高槻聖マリア教会 磯野 真紀子)



OK委員会だより

「私的QあんどA」

Q. 現在の特別協働教区のみまでよいのでは？

A. (前略) 1つの活動を行うにも、それぞれの組織での合意(調整)が必要となりま

す。定期的に、青少年のキャンプなど、即断即決を要する活動などでは、現場の教役者やスタッフが働き難い状況です。(中略)

特別協働教区のみでも、普段の教会生活には直接的、即効性のある影響はありません。しかし、教区の宣教活動を行う現場では、合併した方が働きやすくなります。

先日お配りした合併に関するQ&Aで、私が担当し「たき台」として回答した内容です。「皆に伝わりにくい、万人受けしない」という理由から、もっとキレイな回答に仕上がったものが完成版には掲載されています。

「OK検討委員会」という合併に向けた最初の活動から関わっています。当初言われ

ていたことは、「お互いの体力のあるうちに合併しよう」。2つのものを1つにしてい

具体的作業は相当な体力、気力が必要となります。10年以上経ちました。その底力、まだ残っているでしょうか。

「メリット・デメリットは？」

「説明不足、聞いていない」

色々な名前のOK委員会で何度も話し合い、議案提出に向けて具体的に動きだすたびに、ブレーキがかかります。

教役者からも聞こえてくるたびに「あ、またか」と、気持ちが悪えていきます。

アピールが十分ではないことは認めつつも、10年以上経ってまだ「聞いていない」のであれば、それは「関心がない」のだと思います。

私は合併に賛成です。理由は、両教区の青少年活動のためには合併した方が動きやすいからです。皆さんの教会に

青年や子どもたちが来たとき、「子どもたちの居場所」が用意出来ているでしょうか。「キャンプに行ついで」と繋げることで教会単位では

できない同世代の交わりを経験できます。合併すると教会

に繋がる子どもたちが増えます。両教区が一緒に活動をするようになってから、参加者は右肩上がりに増えてい

「子どもたちの居場所を確保するため」それ以外の理由には私も関心がありません。

教区合併をしてもしなくて

京都地方部第二教主、H・S・タッカー主教の回想録の

記者の方から、『思い出の静かな岸辺を探ねて』をいただき、興味深く読みました。タッカー主教は1874年生まれ、25歳で日本に、27歳で弘前で伝道、30歳で立教学院総

理、37歳で京都地方部主教、大阪教区設立に尽力され、それが実現した1923年に49歳で退任。53歳でヴァージニア教区主教、64歳で米国聖公会総裁主教。

ラテン語やギリシャ語に堪能で文学の造詣が深い。その上、京都地方部在任中に、東京の聖路加国際病院創立者であるトイスラー博士の要請を受けて、赤十字社の任務を負ってシベリアに行き、第1次世界大戦による難民の救護

も、自分の教会の牧師が変わること(定住牧師が居なくなる)、教区への分担金額が上がる、近隣の教会との合併、協働などの変化は訪れます。

11月、両教区の教区会に合併議案がようやく提出されます。これ以上「する・しない」

にあたり、ウラル山脈近くまで行つておられます。四か月後、3週間かけて帰ってきて、不在中にたまった仕事を片付け、教会の巡回をすぐに始めておられます。

近寄りがたく感じるスーパーマンのような人なのですが、回想録の随所にユーモアがあり、多くの人に慕われたのだと思います。

ヴァージニア神学校の神学生だった時、シャロンという伝道礼拝所に実習で行つていて、

説教があたつた。用意した原稿を5分で使い果たし、あと

らくだにも乗った？



で時間を使うのは無駄です。「する」となれば実務的にもっと大変なことがあります。「しない」と決まれば、お互いが自分の教区の近い将来のことに専念できます。

(司祭 出口 崇)

の持ち時間、何も言えなかった。「その時期のシャロンの会衆で生存者がいるならば、私の恐れていることですが、私の説教の進歩に関して誠に芳しくない報告をするに違ありません。」総裁主教退任後の回想です。

「あの時はごめんなさい。説教、曲がりなりにもできるようになりまし」などと決して言わない。神様の前では誰も大したことはない。イエス様がいてくださるからやっ

ていける。「偉大な宣教師、主教、総裁主教であったが、彼は偉大なクリスチャンだった」といわれる方を大先輩に持つお恵み(とプレッシャー)に感謝したいと思います。

(京都教区主教 高地 敬)

教会紹介 京都編

富山聖マリア教会

富山での宣教は、1900年に宣教師J.J.チャップマンが洗礼を受けたことから始まっています。

1950年には教会付属の恵保育園(現在の富山聖マリア保育園)が開園、90年には特別養護老人ホーム常楽園が開所、富山市民病院内の保育所も運営し、地域に根差した福祉を提供しています。

2005年の教会新築の際、英国レスター教区より、ステンドグラス(左写真上部)や教会家具などが寄贈され、清らかな空間を醸し出しています。

最近教会のInstagramを始めました。よければご覧ください。日々更新中です!

(司祭 柳原 健之)



京都教区

【常置委員会報告】 6/22

1. 報告事項

- ▼主教報告
 - 6月8日から10日まで定期主教会が開催された。
 - (学)京都聖パウロ学園と教区との間で、土地の賃貸契約を交わした。
- ▼中日本宣教協働区協働委員会
 - 6月21日、横浜教区からのオンライン研修の情報を教役者MLに送った。

▼特別協働教区運営委員会

●合併に関する「Q&A」が各教会に送られた。

▼特別財産運営委員会

●収益事業の土地利用業者選定に関して、一次審査の報告と共に二次審査に進む業者の推薦があった。

▼京都事件・体質改善関係

●検証報告作成チーム委員会を開催した。

2. 協議事項

- 教区規則と宗教法人規則から四辻伝道所を削除することについて承認した。
- 教区合併に関する京都教区内各伝道区での説明会については、特別協働教区運営

委員会に人選を依頼することとした。

●収益事業の土地利用業者選定に関して、二次審査に進む業者を承認した。

●彦根聖愛教会牧師館改修費を教区の彦根聖愛教会預り金から支出する件について承認した。

●上野聖ヨハネ教会信徒、木村直史さんの信徒奉事者推薦書が提出され推挙した。(文責・常置委員会書記)

【局長会議報告】 6/25

1. 宣教局報告

▼教育部は例年行ってきた夏の

のキャンプの中止を決定。ただし、感染症対策をした代替プログラムについて協議した。

▼6月27日(日)教区青年のための祈祷日のお祈りと献金のお願いを各教会に配布した。

2. 財政局報告

▼2021年度教区経常費収支月次報告(5月31日)

3. 協議事項

▼教務所夏季休暇について協議した。

▼京都教区教役者給与規程一部改訂について協議した。(文責・局長会議書記)

大阪教区

【常置委員会報告】 6/24 8例

I. 主教報告及び諸報告

●教区成立百年の第一回準備委員会が7月16日に行われる。

●大阪聖三一教会の建築計画が6月27日の教会委員会が最終決定される。

●日聖婦の会長会が6月22日(23日)に大阪聖愛教会で開催された(一部オンライン)。

【コロナ関連対応について】

●緊急事態宣言後まん延防止

等重点措置に移行されたことを受け主教メッセージが出された。

●各教会への状況確認アンケートを礼拝音楽委員会が行っている。

【宣教局】中止となっていた夏の小学生とJ's キャンプについて京都教区から形を変えて実施したいとの提案があったが、大阪のコロナの感染状況が改善されていないため、大阪からの参加は見合わせることにした。

【財政局】会計委員懇談会を昨年同様に9月23日(木)

川口基督教会で開催する。

【総務局】第126(臨時)教区会の決議録を作成中。

【OK運営委員会】合併後に大阪教区墓地を合併教区として使用することの京都からの依頼について承認した。

●合併議案提出をアピールするためのポスターを制作している。

●6月1日の教役者会で、太田委員長が教会巡回での合併説明会についての状況を報告した。

II. 協議事項及び主教諮問

●京都との合同常置委員会懇

談会の日程を8月3日、場所を京都教区センターとする。

●活動が停滞している牧会支援委員会(ハラスメント防止委員会)について、信徒及び外部から専門家を募り委員会を再構成する。

●来年度の人事について検討を始める。

●連合男子会、教区婦人会、GFSの各宣教グループの動向について確認した。

●9月予定の講壇交代の日程について、7月の教役者会で検討する。

大阪教区関係教役者
8月逝去者記念聖餐式

8月11日 (水) 10:30~

- 5日 主教 エドワード・ビカステス (1897英)
- 8日 主教 ヘンリー・セントジョージ・タッカー (1959米)
- 9日 宣教師 アグネス・S・ウィリアムス (1970英)
- 10日 司祭 ヨハネ 桜井 猶次郎 (1945)
- 主教 ペテロ 藤本 寿作 (1969)
- 11日 宣教師 シルビア・ルイス・ケンドール・ブッシュ (1966英)
- 18日 司祭 関 翔 (1953.8.18)
- 24日 宣教師 キャサリン・アリス・サルヴィン・トリストラム (1948英)
- 30日 伝道師 ルツ 中村 光尾 (1978)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

京都教区関係逝去教役者
8月記念聖餐式

8月18日 (水) 10:30~

- 3日 主教 マッテヤ 佐々木 二郎 (1972年)
- 4日 司祭 猿橋 二郎 (1945年)
- 5日 伝道師 町田 獅嘯 (1936年)
- 伝道師 西田 宣子 (2010年)
- 9日 主教 St.G.タッカー (1959年)
- 10日 司祭 R.A.ウォーク (1959年)
- 17日 司祭 マタイ 西川 征士 (2010年)
- 24日 司祭 坂口 光太良 (1947年)
- 31日 司祭 J.A.ウエルボーン (1960年)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第3水曜日午前10時30分から、聖アグネス教会で行われます。

洗 礼

大阪聖アンデレ教会
(2020年12月20日)
ヨセフ 池邊 亮輔

奈良基督教会 (6月20日)
アンデレ 塚本 茂誠

堅 信

蕨野聖マリア教会 (伝道所)
(6月13日)
マリヤ 北川 咲子
ペトロ 清水 弘之

奈良基督教会 (6月20日)
クララ 青木 倫子
ダニエル 小田 直史
サムエル 松本 光歩
アンデレ 塚本 茂誠

聖 婚

奈良基督教会 (6月13日)
イザヤ 榎田 史彦
森川 真衣

逝 去 者

聖ルカ教会 (3月6日)
モニカ 久保 輝子
高田基督教会 (4月25日)
エリサベツ 味岡 節子
聖ガブリエル教会 (5月14日)
パウロ 上原 武一
大阪聖ヨハネ教会 (6月8日)
ヨハネ 和田 安稔

奈良基督教会 (6月10日)
マリア 青木 嘉子

伊勢聖マルコ教会 (6月14日)
フランシス 平瀬 彰洋

魂の平安をお祈りいたします。

主教巡回予定 (8月)

●大 阪

1日 尼崎聖ステパノ教会

8日 庄内キリスト教会

22日 大阪城南キリスト教会

29日 西宮聖ペテロ教会

●京 都

1日 八木基督教会

8日 加悦聖三一教会

22日 桃山基督教会

29日 聖アグネス教会

